

令和4年度 国立若狭湾青少年自然の家 ボランティア自主企画事業
「自然の中で踏み出せ一歩！若狭湾チャレンジキャンプ」
R4.11.19(土)～20(日)

ボランティア活動は青少年の自立や健全育成、社会参画を促進する上で重要な役割を果たしており、当機構では各施設のボランティア・コーディネーターが法人ボランティアに対し継続的な教育的支援を実施している。

本事業は、その一環として、各施設の法人ボランティアが自主企画事業を実施するにあたり、ボランティア・コーディネーターがその企画立案時から指導・助言に携わるとともに、事業運営における安全管理等に関わり、法人ボランティアが学びと活動を循環させながら成長していくことを目的として実施した。

◆事業目的

ボランティア自身が主体的に企画・運営する自主企画事業を通して、法人ボランティアの活躍の場や機会の充実を図り、自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら新たな価値を創造できるボランティアを育成する。

◆事業目標

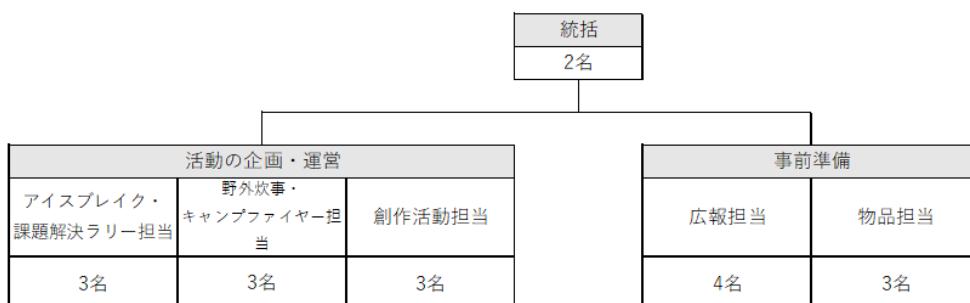
複数人で協働して、目的に応じたプログラムの企画・運営ができる。

ボランティア個人が達成感を感じるとともに、今後の課題・目標を発見する。

◆対象

国立若狭湾青少年自然の家で活動する法人ボランティア 9名

(組織図) 1人2つの担当を担って企画を行った。



◆企画の流れ

①オンライン説明会の実施

昨今のコロナ禍において、ボランティア活動の制限により3年ぶりの自主企画事業であることから、「自主企画事業について興味関心を持つ」「企画スタッフを募る」ことを目的に実施した。

②企画

初めに企画を行うまでの「目的」「目標」を理解したうえで、キャンプの「目的」と「目標」を合意形成する時間を設けた。その後、キャンプの目的を達成するための目標に準じた活動になっているかを確認しながら活動ごとに内容を詰め、月に1度、内容の共有、他者からのフィードバックを兼ねて、全体での打ち合わせをオンラインで行った。

③事前踏査

キャンプの会場となる国立若狭湾青少年自然の家に集まり、参加者が安全に活動できるかどうかの視点を意識しながら、活動内容や指導の練習を兼ねて確認を行った。

◆ボランティア自主企画の実施

①キャンプの名称

自然の中で踏み出せ一歩！若狭湾チャレンジキャンプ

②キャンプの目的

海や山が豊かな若狭湾で体験活動を通して新たな発見をする。

③キャンプの目標

自分と仲間とのコミュニケーションを通して、「挑戦→気づく→表現→見つめる」のサイクルを回すことができる。

※参加者には「たくさん会話する」「とりあえずやってみる」「感謝を伝える」という文言で提示した。

④参加実績

小学4年生～6年生 27名（右記詳細）

	男	女	小計
4年生	9	6	15
5年生	3	5	8
6年生	0	4	4
小計	12	15	27

⑤日程

1日目 11月19日（土）		2日目 11月20日（日）	
10：00	受付	7：00	起床
10：30	はじまりの会・アイスブレイク	7：40	食事
11：30	昼食	9：00	焼き板づくり
12：30	課題解決ラリー	11：30	昼食
15：00	野外炊事	12：30	ふりかえり・おわりの会
19：00	キャンプファイバー	13：00	解散
20：30	入浴		
21：30	就寝		

⑥キャンプの成果

- 活動後に「初めての人に自分から話しかけることができた」と話す姿や、「1人でキャンプに行くのが不安だったけど来てよかったです」と笑みをこぼす姿が見ることができ、「挑戦→気づく→表現→見つめる」のサイクルを回すという目標が達成できた。
- 参加者アンケートでは、「自然がきれいだった」「海の音がきれいだった」「星がきれいだった」「海が汚かった」などの記載があり、活動を通して自然に興味関心を持つことができた。
- 「たくさん会話する」「とりあえずやってみる」「感謝を伝える」を参加者の目標として掲げたところ、おわりの会の発表では、全員ができたことを自分で評価し、参加者同士で発表しあうことができた。アンケートにも、「目標をがんばった」「3つの目標全てできた」など記載があり、目標を意識しながら活動を実施することができた。



⑦参加者の声

- ・最初はあまりしゃべれなかつたけど、新しい友達ができるたくさん会話できた。
- ・両親がいないけど頑張って2日過ごせた。
- ・初めて会つた人でも2日間で仲良くなれたから、これからは自分から話しかけようと思った。
- ・友達って切ないと思った。
- ・友達がいれば宝探しなども心強い。
- ・仲間やチームワークが大事なんだと思った。
- ・キャンプは友達がいるからそんな好きではなかつたけど、アイスブレイクで新しい友達、ボラができて、一緒にご飯を食べたり、いろんなミッションをクリアするのがとても心に残つた。
- ・はじめは友達ができるか心配だったけど、友達ができるいっぱい協力して楽しかった。
- ・苦手なことや、やつしたことないことに挑戦できたり新しいことができた。



◆企画したボランティアの声（ふりかえりより抜粋・要約）

①企画について

- ・目的は大いに達成出来たものの、目標という面から振り返った時に達成出来ていたシーンもあった反面、出来てなかつた部分も目立つていたのではないかと思う。
- ・「挑戦→気づく→表現→見つめる」の「気づく」という部分が少し誘導的になつた。
- ・班付スタッフの仕事量が多く、野外炊事と活動に使う写真選定の時間が足りなかつたし、フォローも不十分であった。班付には子供の対応に集中してもらうためにその他の仕事をあまり振らないことと、時間の余裕をもつて計画することが必要だと思った。
- ・今回、プログラム毎に時間を分けて、各々でフルに時間を使つてしまつたので、子どもにとつては忙しい二日間だったのかなと思った。二日間しかないので難しいとは思うが、もう少し自由時間が取れるように、全体ミーティングでも一連の流れを確認して、子どもが余裕のあるキャンプにできたらと思う。

②事業運営について

- ・立場が違う人が集まり、一つの目標に向けてみんなで頑張るということの楽しさ、難しさを知つた。当日は最高に楽しく、子どもへの接し方、話し方、伝え方を何人もの方から褒めてもらひとても嬉しかつた。
- ・運営をするのは、いろんな視点から考えなければいけないからとても大変だった。私自身もたくさん挑戦することができてよかつた。
- ・普段何気なくボランティア活動に参加させていただく中で、なかなか全体を把握しながら企画を進めていく立場というポジションは経験がなかつた。だからこそ、この立場の大変さや、全体を見る難しさ、予定と違つた事態に対応する力など、まだまだ自分に足らない部分と新たな自分というものを見つけることが出来た。
- ・私1人の力では出来ることが限られておりみんなの力を沢山借りて成功させようと考えたので、それぞれの得意なことに合わせて役割を振り全員で協力出来たと思う。
- ・互いにカバー出来る部分はし合つて、お互いに助け合いながら約半年間の時間を共に出来た。
- ・新しく企画を作る過程を学ぶことができた。また、人と一緒に物事を進めるうえでタスクやスケジュールの管理がとても大切だと分かった。

◆事業の成果

- ・高校生から社会人までの所属や年齢が異なる企画スタッフが、自分たちで事業当日までのスケジュールを立て、綿密な企画を練り、無事最後まで事業を運営することができた。参加者の満足度は高く、目的、目標に沿つた声が聞くことができた。
- ・ボランティア活動の経験が浅い企画スタッフが多い中、経験者が全体のイニシアティブを取り話し合いを進めることができた。困つた時に経験者に相談するなどの関係性が築けていた。
- ・企画スタッフが9名と人数が多い中、全員の意見をすり合わせることに苦慮し、不満も感じ取れたが、

各個人が話し合いでの自分について振り返り、その経験を自己の成長につなげることができた。

- ・「周りの意見を聞くことで自分の意見をより深めることができるということに気づいた」など声から、事業の企画・運営を通して学びを深めることができた。
- ・「意見を積極的に言えるように頑張る」、「子どもたちの前に立つ人間としてもっと伝え方などを勉強する」など、ボランティア自身が課題を発見し、今後の活動につながる目標を立てることができた。

◆事業のツボ・工夫・反省

- ・キャンプの目的、目標を踏まえたうえで、それらを達成できるように活動内容を考えたことで、活動ごとの意味に繋がりができ、1泊2日という短い期間でも目的を十分に達成できた。
- ・企画スタッフに役割を与えることで、企画スタッフを組織として運営した。異年齢、異所属、なおかつ人数が多いこともあり、話し合いが進まないこともあったが、所属や年齢を超えて一緒に活動をしたこと、自分の役割を全うし、活動を実施できたことは、「若狭湾ボランティア」を組織立てていくための基礎になりえると考える。
- ・企画スタッフの中に初対面同士の人もいる中での企画は、思うように話し合いが進まない場面が多々見られた。今回はオンラインでの打ち合わせを主として進めたが、ボランティア同士の関係性を築くことためにも、初めの企画説明やキャンプの目的等を決める時間は対面で行うことが必要であると感じた。その他、可能な限り対面で話し合える機会を増やすことが望ましい。